

登録番号 第 22469 号

サムコル®フロアブル 10

- 特長：
- チョウ目害虫に高い効果を発揮します。
 - 速やかに害虫の摂食活動を停止させ、長い残効性を示します。

サムコルはFMC Corporation またはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です

有効成分	クロラントラニプロール・・・10.0%	包装	200ml×10×4 500ml×20
性状	淡褐色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

2020年2月26日現在の内容です。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数
りんご	シクイムシ類 ハマキムシ類 ケムシ類 キンモノガ ギンモノハモグリガ ヒメボクトウ	2500～5000倍	200～700 リットル/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
	ヨモギエダシヤク オタバコガ	5000倍					
なし	ケムシ類 シクイムシ類	2500～5000倍	200～700 リットル/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
	ハマキムシ類 ヒメボクトウ	5000倍					
かき	ハマキムシ類 ケムシ類 ヒロヘリアオイガ カキハタムシガ ハスモンヨトウ フタモンタテラメイガ	5000倍	200～700 リットル/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
ぶどう	ハマキムシ類 ケムシ類 モンキクロノメイガ クビアカサシバ	5000倍	200～700 リットル/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
おうとう	コスサシバ	5000倍	200～700 リットル/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
	ハマキムシ類 ケムシ類	2500～5000倍					
	オトウシヨウジヨウバエ	2500倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数
うめ	ケムシ類	2500～5000 倍	200～700 リットル/10a	収穫 14 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ハマキムシ類	2500 倍					
	ノメカゲリカガ コスカシバ	5000 倍					
すもも	シクイムシ類	2500 倍	200～700 リットル/10a	収穫 3 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ケムシ類 ハマキムシ類	2500～5000 倍					
あんず	ケムシ類 ハマキムシ類	2500 倍	200～700 リットル/10a	収穫 3 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
ふさすぐり	スガリコスカシバ	2500 倍	200～700 リットル/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
もも	シクイムシ類 ハマキムシ類 モモハゲリカガ コスカシバ	5000 倍	200～700 リットル/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
	シクイムシ類 ハマキムシ類 モモハゲリカガ コスカシバ						
初刈り	シクイムシ類 ハマキムシ類 モモハゲリカガ コスカシバ	5000 倍	200～700 リットル/10a	収穫 3 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
さとうきび	イネトウ	5000 倍	100～300 リットル/10a	収穫 30 日前 まで	3 回以内	散布	4 回以内 (粒剤は 1 回以内、 水和剤は 3 回以内)
茶	チャノコカゲノハマキ チャハマキ ヨモギエダシヤク	2000 倍	200～400 リットル/10a	摘採 3 日前 まで	1 回	散布	1 回
	チャノソバ	2000～4000 倍					
	ハスモンヨトウ	4000 倍					

については有効成分を含む農薬の総使用回数を示すものです。

使用上の注意事項

- (1) 使用前によく振ってから使用すること。
- (2) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (3) 散布液調製後はできるだけ速やかに散布すること。
- (4) 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節すること。
- (5) 過度の連用をさけ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせ使用すること。
- (6) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (7) 空容器は圃場などに放置せず、3 回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理すること。洗浄水はタンクに入れること。
- (8) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤飲などのないように注意すること。

- (2) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (3) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 散布の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。